

放送日 令和5年2月2日（木）
担当者 副市長 水口 真

おはようございます。副市長の水口 真です。

今日も庁舎周りの除雪当番ありがとうございます。ご自宅の方は大丈夫でしょうか？私は徒歩で通勤をしていますが、昨日の朝は、JR北広島駅西口から、栄町歩道橋を渡り、栄町2丁目バス停までの間、凍結路で転ばないように砂が撒かれていました。厳しい寒波の後で道もすべりやすく、足元が不安となる箇所でしたので、本当に助かりました。

さて、朝のスピーチでは挨拶について何度かお話をさせていただいています。駒澤大学の仏教学部 永井教授が監修された禅の本には、漢字で「挨拶」と書く文字の本来の意味は、「そばに身を寄せて 押し合うこと」とあり、その意味合いは、人と接するときには、まず押したり、叩いたりして、相手の心の玄関を開くところから人間関係は始まる。ゆえに人の心の玄関を叩く「挨拶」をいいかげんにすることは、人間関係をおろそかにすることであり、普段の挨拶にその人の生き方が表れる。と書かれています。長い歴史から成り立つ漢字ですから、先人からの一つの教えであると考えます。挨拶の実践、皆さんはできていますでしょうか。自分の挨拶が相手の心の玄関を叩いているか練習するよい機会があります。

私は、教育部長時代から黄色い帽子の新1年生に挨拶の学び直しをさせていただいています。新1年生は、小学校で先生から挨拶を最初に学ぶのでしょうか、それとも幼稚園・保育園で学ぶのでしょうか？通勤時に合う新1年生は、私より先に立ち止まり、元気に挨拶をします。中には、立ち止まらず挨拶をしながら走り去ってく児童もいます。大きな勇気を感じ取れます。

自分の挨拶が新1年生の心の玄関を叩けるかどうか、4月に向けて練習を始めてみて下さい。私は平成23年度以降に入庁した多くの職員の最終面接に係わってきました。採用した皆さんは、面接会場に入る際、きれいなたたずまいで素敵な挨拶をされていました。現在策定中のコンプライアンス基本方針の職員の行動指針においては、信頼される市民対応に向け、挨拶を実践することを掲げます。

令和5年度は北広島市にとって新時代を迎える年であり、コンプライアンス行動指針の実践を開始する年となります。令和4年度残り2か月の中で、令和5年度に実行する仕事への取組みとご自身の生活の中での取組みを計画し、行動の準備を始めて下さい。令和5年度が令和6年度以降の手本となる年度になることを期待します。

2月は短いですが、各部ともやらなければならない事業がたくさん入っています。職場の仲間同士、お互いの健康に留意しながら頑張りましょう。